

認定 NPO 法人 子どもの心理療法支援会

2019-20

精神分析的な心理療法 研修プログラム

募集要項

はじめに

京都・大阪を中心に心理療法支援や研修の提供を行ってきました「子どもの心理療法支援会」は、発足 14 年目を迎え、その活動の社会的意義も認識され、寄付金控除などの税制が優遇される認定 NPO 法人として認められています。また、サポチル関東が発足したことで、関東でも臨床セミナーや研修プログラムを受講していただけるようになりました。時間や費用にも関わらず、心理療法を実践する力の向上を求める先生方の熱意にサポチルはこれまで支えられてきたのだと深く感謝しております。

この研修プログラムは精神分析的な心理療法に関する高い専門性を有した心理療法士を育成していく活動の一環として開講してきました。皆様が自立性・自主性・専門性を持ち、目指す成長を達成するために学ぼうとする「場＝アトリエ」をこちらが提供するという「アトリエシステム」をスローガンに、毎年 100 名を超える方々に参加していただいております。

・昨年度より 2 種類の訓練コースを設立しました

公認心理師法の施行に伴って、心理職の資格制度も激動の時代を迎えています。こうした中で、子どもの精神分析的な心理療法の入門から高い専門性の定着までの訓練過程を明示し、その達成までをきめ細かくサポートする体制がこれまで以上に必要になっていると考えます。そこで私たちは、より確かな専門性の手ごたえを得られるように体系化された訓練コースを新たに設立しました。この訓練コースのセミナーについても、この募集要項にて簡単にご紹介いたします。コース設立初年度である昨年、訓練コースへの参加を希望する方が複数名いたことから、来年度も各種訓練コースの 2 期生を募集するに至りました。

また、2011 年から開始した「子どもの精神分析的な心理療法士」資格の認定制度では 12 名の先生が資格を取得されており、今後もさらなる発展を目指します。さらに 2015 年には、「子どもの精神分析的な心理療法スーパーバイザー」の資格（現在、有資格者 1 名）も設定し、指導者層の育成にも力を入れています。

・今年度の主なプログラム内容の変更点

文献講読Ⅰの内容は、京都では「フロイト」、大阪では「現代クライン」となります。文献講読Ⅲは、北川先生・久保先生に加え、新しく狗巻先生を講師としてお迎えし、新しい文献を読み始めることとなります。また、溝端先生・渡邊先生による初学者向けの心理療法セミナーを新たに開講します。上記に記載したコース化に伴い、新たに開講するセミナーと今年度は不開講になるセミナーがありますので、プログラム一覧をご参照ください。皆様の積極的な参加を心よりお待ちしております。

NPO 法人 子どもの心理療法支援会
理事長 平井正三

1. 研修プログラム一覧

本研修プログラムは、「基幹セミナー」、「応用セミナー」によって構成されています。訓練コースのプログラムも記載しております。詳しい内容については、「5. プログラム紹介」をご覧ください。
 ☆下記日時は、基本的な日時であり、講師の先生の都合で変動することがあります。ご了承ください☆

コース名			講師	会場	定員	日時	
基幹セミナー	乳児観察セミナー		平井正三	御池	5名	毎週月曜日 19:30~21:00	
			鶴飼奈津子	梅田	5名	毎週土曜日 10:30~12:00	
			由井理亜子	御池	5名	毎週土曜日 11:00~12:30	
	精神分析入門セミナー（小人数の講義形式）※1		津田真知子他	森ノ宮	10名	第1土曜日 15:40~18:10	
	ワーク・ディスカッションセミナー		鈴木誠	御池	8名	第3土曜日 18:30~21:00	
文献講読	文献講読Ⅰ	現代クライン※1	飛谷渉	なんば	15名	第4土曜日 18:30~21:00	
		フロイト※1	平井正三	御池	12名	第1土曜日 18:30~21:00	
	文献講読Ⅲ※2 「こころの発達心理学」		狗巻修司 ／北川恵 ／久保信代	御池	12名	第2土曜日 16:30~18:30	
応用セミナー	GSV	Small Group SupervisionⅠ※1	飛谷渉	なんば	5名	第2・4火曜日 20:00~21:30	
		Small Group SupervisionⅢ	仙道由香	新大阪	5名	第2・4火曜日 8:30~10:00	
		森ノ宮事例検討会※1	津田真知子他	森ノ宮	10名	第1土曜日 18:40~20:40	
	勉強会・ワークショップ	親面接セミナー		津田真知子	京橋	5名	第2土曜日 16:00~18:00
		思春期青年期の 精神分析的心理療法セミナー		飛谷渉	なんば	15名	第2土曜日 18:30~21:00
		心理療法のアセスメント（成人）		仙道由香	新大阪	10名	第4土曜日 18:30~21:00
初學者向け 子どもの心理療法セミナー		溝端伸枝／ 渡邊智奈美	森ノ宮	8名	第2土曜日 13:30~15:30		
訓練コース	2期生	観察と臨床基礎	基礎セミナーⅠ	松本拓真	森ノ宮	—	第1・3土曜日 14:30~16:30
		セラピスト養成	アセスメントセミナー	鶴飼奈津子	梅田	第3土曜日 18:30~20:30	
			初年度GSV			第2土曜日 19:00~20:30	
			基礎セミナー	松本拓真	森ノ宮	第1土曜日 16:45~18:45	
	1期生	観察と臨床基礎	基礎セミナーⅡ	竹山陽子	御池	—	第1・3土曜日 16:00~18:00
		セラピスト養成	文献セミナー	平井正三	御池	第4土曜日 18:40~20:40	
			2年目GSV			第2・4土曜日 17:00~18:30	
			正会員限定		土曜研究会	平井正三	御池

※1: 日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士認定研修の単位が取得できるセミナーです。

※2: 3名の先生が担当します。

2. 受講料

	コース名	受講料	納入方法
基幹セミナー	乳児観察セミナー	5,000 円/1 回	各月ごとに講師にお支払ください。
	精神分析入門セミナー	30,000 円/全 10 回	受講料は 3 月末までに指定の振込先へ納入ください。
	ワーク・ディスカッションセミナー	50,000 円/全 10 回	受講料は 3 月末までに納入ください。分納希望される方は半額を 3 月末まで、残りの半額を 10 月末までに指定の振込先へ納入ください。
	文献講読 I	正会員 50,000 円/全 10 回	受講料は 3 月末までに納入ください。分納希望される方は半額を 3 月末まで、残りの半額を 10 月末までに指定の振込先へ納入ください。 ※正会員割引は2月の理事会までに入会が承認された方に限ります※
	文献講読 III	その他 60,000 円/全 10 回	
応用セミナー	Small Group S.V. I	5,000 円/1 回 90 分	セミナー開講後、講師の指示に従ってください。
	Small Group S.V. III	6,000 円/1 回 90 分	
	森ノ宮事例検討会	25,000 円/全 10 回	
	親面接セミナー	40,000 円/全 10 回	
	思春期青年期の 精神分析的心理療法セミナー	50,000 円/全 10 回	
	心理療法のアセスメント(成人)		
	初学者向け 子どもの心理療法セミナー	2,0000 円/全 10 回	
土曜研究会	無料	NPO 正会員のみ参加できます。 参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。	

注：一度納入されました受講料は、返金いたしかねますのでご了承ください。

料金の分納制度はあくまで振込みの負担を軽減するための措置です。研修プログラムは1年を通して参加していただくことで得られる濃密な学びとメンバーシップを重視しておりますので、半年単位の参加はご遠慮いただいております。

3. 講師紹介（敬称略，50音順）

<p>狗巻 修司</p>	<p>京都府立大学大学院修了（博士：福祉社会学）後，日本学術振興会特別研究員（PD），佐賀大学文化教育学部講師を経て，現在，奈良女子大学大学院人文科学系准教授。</p>
<p>鵜飼 奈津子</p>	<p>1997～2004年タビストック・クリニック児童・家族部門留学，Child & Adolescent Psychotherapist 取得。ロンドン医療センターおよびRefugee Therapy Centre，Child & Adolescent Psychotherapist を経て，現在，大阪経済大学人間科学部教授。</p>
<p>北川 恵</p>	<p>1999年京都大学教育学研究科博士課程研究指導認定退学。2002年教育学博士（京都大学）。Adult Attachment Interview コーダー資格。The Circle of Security program (COS) 実施資格，「安心感の輪」子育てプログラム (COS-P) 研修トレーナー資格。現在，甲南大学文学部人間科学科教授。</p>
<p>久保 信代</p>	<p>Lesley College (現 Lesley University) Graduate School, Severe Special Needs 修了。現在，関西福祉科学大学心理科学部心理科学科准教授。臨床心理士。</p>
<p>鈴木 誠</p>	<p>1988年名古屋大学医学部精神医学教室 卒業研修修了。現在，くわな心理相談室 主宰。日本精神分析学会認定スーパーバイザー・認定心理療法士。</p>
<p>仙道 由香</p>	<p>臨床心理士。2008～2014年タビストック・クリニック成人部門留学。タビストック認定成人心理療法士(TQAP) 資格取得。英国精神分析協議会(BPC) 登録精神分析的な心理療法士。現在，新大阪心理療法オフィス代表のほか，大阪経済大学および同大学院にて兼任講師も務める。https://yukasendo.com</p>
<p>竹山 陽子</p>	<p>奈良女子大学修士課程修了。現在，御池心理療法センター/岡クリニック勤務。日本精神分析学会認定心理療法士。NPO 法人子どもの心理療法支援会認定「子どもの精神分析的な心理療法士」。</p>
<p>津田 真知子</p>	<p>奈良女子大学修士課程修了。関西心理センター・谷町子どもセンター所長を経て現在，大阪心理臨床研究所代表。NPO 法人子どもの心理療法支援会副理事長。国際精神分析協会（IPA）認定精神分析家（日本精神分析協会準会員）。日本精神分析学会認定スーパーバイザー。</p>
<p>飛谷 渉</p>	<p>1991年大阪市立大学医学部卒，2004～2008年タビストック・クリニック思春期青年期部門留学。現在，大阪教育大学保健センター准教授。精神科医，日本精神分析学会認定スーパーバイザー。</p>
<p>平井 正三</p>	<p>京都大学教育学研究科博士課程を経て，タビストック・クリニック児童・家族部門留学，Child & Adolescent Psychotherapist 訓練コースを修了し，資格取得。現在，御池心理療法センター代表および認定 NPO 法人子どもの心理療法支援会理事長。大阪経済大学客員教授。日本精神分析学会認定スーパーバイザー。</p>
<p>松本 拓真</p>	<p>大阪大学大学院博士後期課程修了（人間科学博士）し，現在，岐阜大学教育学部助教。2018年に「子どもの精神分析的な心理療法スーパーバイザー（コンサルタントセラピスト）」を取得。近著に「自閉スペクトラム症を抱える子どもたち：受身性研究と心理療法が拓く新たな理解」（金剛出版）がある。</p>
<p>溝端 伸枝</p>	<p>臨床心理士，2016年「子どもの精神分析的な心理療法士」資格取得，谷町こどもセンター・関西心理センター等勤務。</p>
<p>由井 理亜子</p>	<p>大阪大学大学院人間科学研究科博士課程単位取得認定退学。臨床心理士。2017年「子どもの精神分析的な心理療法士」を取得。現在，御池心理療法センター，精神科クリニックなどで勤務。</p>
<p>渡邊 智奈美</p>	<p>臨床心理士，2015年「子どもの精神分析的な心理療法士」資格取得，河内総合病院，大阪心理臨床研究所等勤務。</p>

4. 会場

それぞれの会場の詳細は受講が決定した際にお知らせします。

表記	会場の名称	最寄駅
御池	御池心理療法センター	阪急烏丸駅下車 15 分, 地下鉄烏丸御池駅下車 2 分
梅田	(詳細は受講決定後にお知らせします)	JR・阪急・阪神梅田駅下車 10 分 地下鉄中崎町駅下車すぐ
なんば	精神分析的心理療法・プラクティスなんば	地下鉄大国町駅下車 5 分
京橋	大阪心理臨床研究所・京橋心理相談室	JR・京阪・地下鉄京橋駅下車 5 分
森ノ宮	森ノ宮心理相談室	JR・地下鉄森ノ宮駅下車 5 分
新大阪	新大阪心理療法オフィス	JR・地下鉄新大阪駅下車 7 分

5. プログラム紹介

5-1: 基幹セミナー

子どもの精神分析的心理療法 BASIC は今年度は休講となります。類似した内容が「初学者向け子どもの心理療法セミナー」にて扱われます。

5-1-1: 乳児観察

精神分析的な心理療法を実践するにあたって、基本的な治療者の態度について学ぶことができます。心理療法の事例を持たない方の参加も歓迎しています。本セミナーは、ウェイティングが出ており、空きが出たタイミングで参加することになります。2018 年度の申請から、定員が超過した場合は「観察と臨床基礎コース」希望者の参加が優先されます。

乳児観察セミナー	平井正三先生／御池	毎週月曜日／19:30～21:00
	鵜飼奈津子先生／梅田	毎週土曜日／10:30～12:00
	由井理亜子先生／御池	毎週土曜日／11:00～12:30

—講師（平井先生）からの内容紹介—

本セミナーでは、タビストック方式乳児観察を実際に経験することで、乳児の心の世界や母子関係の実際に触れる一方、精神分析的観察のスタンスを身につけていくことを目指していきます。参加者は、2年間毎週1時間観察のために、そしてさらにそれ以上の時間を記録のために費やすことのできるコミットメントを必要とされます。乳児観察の経験は子どもの精神分析的な心理療法の研修の基礎であると、本NPOは考えています。本セミナーに参加を希望される方に対しては、事前に始め方などをご相談いただく機会を設けますので、NPOの事務局もしくは講師にご連絡ください。

5-1-2: 精神分析的な心理療法実践の基本を学ぶ

・精神分析入門セミナー

精神分析の歴史・基礎概念・技法などを系統的かつ包括的に学ぶことを目的としたセミナーです。少人

数を対象とした講義形式で、かつ毎回講師が代わりオムニバス形式で豊かな視点を身に着けられるよう企画されていることが特徴です。「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「系統講義」として認定されています。

精神分析入門セミナー	津田真知子先生 他／森ノ宮	第1土曜日 15:40～18:10
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>精神分析学会認定系統講義ですので4年(100時間)で精神分析の全体を学べるようにプログラムが組んであります。今回は2クール目の2年目で、「対象関係論の展開」を学びます。精神分析を基礎からを学びたい方のためのものですが、中堅の方も再度ご自分の学びを振り返る機会にさせていただけるものです。講義は系統的に組まれています。次年度は「症状と病態の精神分析的理解」、次の年は「精神分析の面接技法」となります。</p> <p>この小規模セミナーは受容的な雰囲気の中で、講師の経験事例も聞きながら精神分析理論が生きた形で学べるように工夫されています。小規模なセミナーのために大規模なセミナーでは体験できない参加者同士の親密感や安心感を基に、出しにくい素朴な質問や疑問も率直に出しやすいのが特徴です。精神分析的臨床の力をつけるためには、絶えず実践と理論を行きつ戻りつ並行して学び、深く考える態度を身に着けることが必要です。また自分の疑問や考えを表現することが重要です。本セミナーはその訓練に寄与できるものと考えます。</p> <p>講義は、主に精神分析学会の認定精神療法医・認定心理療法士、及び認定スーパーバイザーが担当します。本年度も講師のほかにゲスト講師を加えて理解がより深まるようにしています。</p> <p>4年を1クールとしていますが、1年ごとの受講も可能ですので奮ってご参加下さい。</p>		

5-1-3 : ワーク・ディスカッションセミナー

ワーク・ディスカッションセミナー	鈴木誠先生／御池	第3土曜日 18:30～21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>実際にワーク・ディスカッションを体験することを中心に据えます。隔月でこの方法論で組織心性を研究した『Social Defence Against Anxiety』(編:マイケル・ラストイン)の日本語訳を読んでいきます。通常では心理療法が届かない人々や世界へ貢献するチャレンジを修得していきます。</p>		

5-1-4 : 文献講読

精神分析および発達に関する基本的な文献を読み、学んでいきます。文献講読Ⅰは2つのセミナーが開講されており、内容が異なりますのでご注意ください。飛谷先生によるなんば開講は1ターム4年の4年目(現代クライン)、平井先生による御池開講は1ターム4年の1年目(フロイト)となります。どちらの「文献講読Ⅰ」も「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「系統講義」として認定されています。

文献講読Ⅰ	現代クライン／飛谷渉先生／なんば	第4土曜日／18:30～21:00
「精神分析のエッセンスを学ぶ」	フロイト／平井正三先生／御池	第1土曜日／18:30～21:00
<p>—講師(飛谷先生)からの内容紹介—</p> <p>年間テーマ:「現代クライン派の概念と技法:ナルシズムから自閉スペクトラム臨床へ」</p> <p>精神分析の歴史を踏まえた理論的、技法的発展について、フロイトからクライン、クラインからビオン、さらに現代クライン派の展開というクライン派の系譜を軸に、4年間かけて系統的に学んでゆく文献講読コースです。次年度は3クール目の4年目にあたり、クライン派、ポスト・クライン派、現代クライン派といった後の流れを一年間かけて概観します。クラインに学んだ分析家から、その後の世代まで、重要な概念的・技法的寄与のある分析家</p>		

の論文、具体的には、シーガル、ローゼンフェルド、メルツァー、ジョゼフ、タスティン、ブリトン、シュタイナーなどの文献を一回につき二本ずつ購読してゆくことになります。今年度ビオンの文献購読に参加された方はもちろん、現代クライン派のナルシズム臨床に関心をお持ちの方、自閉スペクトラムに対する精神分析的理解の糧を得たい方に向けた構成にしています。今回だけのご参加の方にも適しています。

使用文献：‘Rosenfeld in Retrospect’ Ed Steiner, J., Routledge

‘The Works of Hanna Segal’ Segal, H. Aronson

‘Psychic Equilibrium and Psychic Change’ Joseph, B. Routledge

‘The Claustrum’ Meltzer, D. Karnac.

‘Psychic Retreat’ Steiner, J. Routledge

‘Autistic Barriers in neurotic patients.’ Tustin, F. Karnac. 他

—講師（平井先生）からの内容紹介—

本セミナーでは、フロイトの主要な論文を読んでいきます。主要テキストは Standard Edition と岩波書店の全集を用います。副読本として、キノドスの『フロイトを読む』を用います。

文献講読Ⅲ 「こころの発達心理学」	狗巻修司先生／北川恵先生／久保信代先生 御池	第2土曜日／ 16:30～18:30
前半（4月～8月）を北川先生・久保先生、後半（10月～3月）を狗巻先生にご担当いただきます。		
—北川先生からの内容紹介—（4月5月は北川先生、6月7月8月は久保先生にご担当いただきます）		
<p>文献講読Ⅲは、2018年度に開始した新たなターム（3年間）の2年目となります。2年目からの参加も歓迎しています。今タームは、Bowlby とともにアタッチメント理論を創生し、とりわけ精力的な観察研究によって、世界標準のアタッチメント測定方法である Strange Situation Procedure を開発した Mary Ainsworth のもっとも代表的な本である “Patterns of Attachment” を講読します。本書は以前、絶版となっていたのですが、近年復刻版が出版され、Waters たちアタッチメント研究第一人者による Preface も収録されています。それによると、SRCD (the Society for Research in Child Development) において、過去50年間でもっとも革新的で重要な発達心理学の知見であると評価されています。英語文献ですので、一回につきおおよそ1章のペースで、じっくり取り組みたいと思います。参加者には、事前学習として、日本語の課題図書を読んでおいていただき、アタッチメントと発達研究の基礎知識を共有したうえで、文献講読Ⅲに臨みたいと思います。</p> <p>【課題図書（事前学習）】</p> <p>数井みゆき・遠藤利彦（2005）アタッチメント：生涯にわたる絆、ミネルヴァ書房</p> <p>【テキスト】</p> <p>Ainsworth, M., Blehar, M., Waters, E., & Wall, S. (1978/2015). Patterns of Attachment: a psychological study of the strange situation. New York: Psychology Press.</p>		
—狗巻先生からの内容紹介—		
<p>乳児期の発達的変化のひとつとして、他者と注意を共有する現象（共同注意）が見られ始めることが指摘されています。この共同注意は、乳児に限らず、大人も含め人間が行うコミュニケーションの基盤となります。さらに、自閉症スペクトラム障害児者に共同注意において固有の障害を示すことも指摘されています。</p> <p>そこで、今回の文献講読では、比較認知科学の第一人者であるマイケル・トマセロの『コミュニケーションの起</p>		

源を探る』(勁草書房)を取り上げたいと思います。1回につき1~2章を熟読し、乳幼児期のコミュニケーションの発達について学ぶとともに、自閉症スペクトラム障害にみられる障害特性についても考えていきたいと思います。なお、事前学習として、以下の課題図書を読んでおいていただき、共同注意に関する基礎知識を共有したうえで、ご参加ください。

【課題図書(事前学習)】

大藪泰, 田中みどり, 伊藤英夫編著(2004)共同注意の発達と臨床: 人間化の原点の究明 川島書店

【テキスト】

マイケル・トマセロ著/松井智子・岩田彩志(訳)(2013)コミュニケーションの起源を探る 勁草書房

5-2: 応用セミナー

「応用セミナー」は、講師の先生方が独自に運営されるセミナーを本研修プログラムの一つとして組み入れているものです。経験豊富な講師の方々がそれぞれユニークな視点と専門性をもって開催しているセミナーです。より多角的に心理療法について学んでいくことができます。

5-2-1: グループスーパービジョン

少人数のグループスーパービジョンです。1年間継続して、同一のメンバーが、同じスーパーバイザーのもとで事例を検討します。各グループとも受講生にあった細やかな指導がなされるとともに、スーパーバイザーの臨床に対する考え方やケースに対する姿勢など、さまざまな面を学ぶことができます。「森ノ宮事例検討会」だけは毎回様々な先生を講師としてお招きし、多角的な議論ができるようになっております。尚、I・森ノ宮事例検討会については、「日本精神分析学会認定精神療法医・心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「症例・事例検討会」として認定されています。

Small Group S.V. I	飛谷渉先生/なんば	第2・4火曜日/20:00~21:30
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>子ども、思春期、成人という幅広い年齢層のケースを対象としてグループ・ディスカッション形式のスーパービジョンを行います。精神分析的な心理療法における治療構造の創造とその維持、転移逆転移をどう読みどう解釈するか、その二つをグループスーパービジョンの主眼とし、さらに心理療法のセットアップ、アセスメント、精神分析的態度の獲得などにも適宜ふれて行きます。その中で1セッションごとに何が起きているのかを感知できる力をつけることを目標とします。日本精神分析学会認定研修グループ(症例検討会機能)となっています。</p>		

Small Group S.V. III	仙道由香先生/新大阪	第2・4火曜日/8:30~10:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>大学生程度から老年期までの成人(個人)を対象とした精神分析的な心理療法について検討します。毎回ひとつのセッションに関する詳細なプロセスノートをもとに小グループで丁寧にディスカッションし、特にセラピストとクライアントの間で展開される転移・逆転移やファンタジーを生き生きと理解することを目指します。さらに、より適切な関わり方の技法について理解を深めます。</p> <p>※前年度から引き続いて参加ご希望の方も今年度分として改めてお申込みをしてください。(定員: 最少3人~最</p>		

大5人)

森ノ宮事例検討会	津田真知子先生 他ノ森ノ宮	第1土曜日ノ18:40~20:40
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>精神分析入門セミナー（15時40分~18時10分）の後の時間帯（18時40分~20時40分）に行われます。参加者が順番に事例を提供し、それを助言者の先生を中心に参加者全員で検討します。助言者は入門セミナーの講師、ゲスト講師の2名で、2名の先生とクローズドの参加者で毎回率直なディスカッションがなされます。凝集性が高く活発でオープンな雰囲気ので検討会ですので初めて事例を出される方も参加しやすいものです。参加者は、事例を提供できる方に限定します。</p> <p>事例検討会は、自分の経験していないケースについて考え、自分の考えを言語化する訓練の機会になり、臨床家に不可欠な研修です。</p> <p>日本精神分析学会認定の事例検討会ですので認定取得を希望される方も歓迎いたします。</p>		

5-2-2: セミナー・ワークショップ・勉強会

それぞれのセミナーやワークショップが独自のテーマを設定し、少人数で1年間継続して学べるようになってきました。事例の特徴に合わせて必要な知識を集中的に学べるセミナーや子どもに限らず心理療法の基本を学べるセミナーなどがあります。

親面接セミナー	津田真知子先生ノ京橋	第2土曜日ノ16:00~18:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>親面接は子どもの心理療法に重要かつ不可欠なものですが、これまで十分に学びの機会がありませんでした。昨年度に子どもの精神分析的な心理療法士の訓練コースが創設されたのと共に親面接セミナーを開設しました。前半は文献講読を行い、後半は参加者にケースを提供していただき全員でディスカッションを行います。</p> <p>職場の如何を問わず親面接を担当されている方の参加をお待ちしています。</p>		

思春期青年期の精神分析的な心理療法セミナー: タビストックのアドレセント臨床を学ぶ	飛谷渉先生ノなんば	第2土曜日 18:30~21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>本年のテーマ: 「思春期とジェンダー」</p> <p>本講は、前半1.5時間の文献講読と、後半1.5時間の事例検討で構成されています。今回の文献講読では最近増加しているジェンダー問題の精神分析的な理解に取り組みます。</p> <p>思春期青年期（13歳~22歳）の臨床例をお持ちの臨床家、もしくは近い将来そのような年齢層の患者との面接をする予定の臨床家が対象となります。文献講読とともにアセスメントやマネージメントも含めた事例検討を広い視野のもとで行います。スクール・カウンセリング、学生相談、児童思春期精神医療、児童養護施設など、様々な領域からの事例検討を行います。その際、特に臨床現場の特性やセッティングの相違によるアプローチの違いに焦点化して検討します。それらの事例がサイコセラピーに向いているかどうか、そうでないならどのような対応が治療的かといったことから、本格的な精神分析的な心理療法の中での思春期にも焦点を当てます。さらに英国タビストックの思春期青年期部門におけるアプローチを紹介し、日本における現代の思春期臨床の中でそれらをいかに適用できるかなど検証します。メンバーには文献講読か事例検討どちらかへのご発表をしていただきます。</p>		

使用文献： ‘A Stranger In My Own Body: Atypical gender identity development and mental health’ Domenico di Ceglie (ed.) (Karnac,1998)

心理療法のアセスメント（成人）	仙道由香先生／新大阪	第4土曜日／18:30～21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>心理療法にさきだっては、丁寧なアセスメント・コンサルテーションをおこなうことが極めて重要です。アセスメント・コンサルテーションとは、目の前に現れたその人にとり、いまこの時点において心理療法が役に立ちそうか、役に立つとするならどのような頻度や設定の心理療法を、どのような治療目標のもとにおこなうことが最もよいか、セラピストや治療構造の限界なども見極めつつ判断し、合意に至ろうとするプロセスを指します。最終的な合意という結論に至る道のりそのものが既に治療的な体験をもたらすこともできます。本セミナーでは、そのようなアセスメント・コンサルテーションについて、毎回まず1時間半をかけて参考文献等を皆で講読し、考え方や技法について理解することを目指します。次いで1時間の事例検討をおこない、より体験的に理解を深めることを目指します。（定員：最少3人～最大9人）</p> <p>※新規参加の方も前年から継続して参加の方もいずれも歓迎です。</p> <p>※本シリーズは成人(大学生程度から老年期まで)を対象としたアセスメントを取り扱います。</p>		

<p>初学者向け 子どもの心理療法セミナー</p>	<p>溝端伸枝先生／渡邊智奈美先生 森ノ宮</p>	<p>第2土曜日／13:30～15:30</p>
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>このセミナーは、大学院生や院卒5年目くらいまでの方を対象としています。子どもの精神分析的な心理療法に関心があり、実践し始めたばかりの方にぜひお越し頂きたいと考えています。セミナーの前半は文献の講読とディスカッションを行います。文献は、子どもの精神分析的な心理療法を実践するうえでの基礎となる考えについて学ぶものや、幅広く心理療法や子どもの心の理解につながるものを読んでいきます。後半は子どもの事例検討を行い、参加者が自らの臨床について言葉にして提示する機会を提供します。初学者ならではの素朴な疑問、心理療法を実施しようとするうえで生じる不安についても一緒に考えていく場にしたいと考えています。</p>		

5-3：訓練コース

「観察と臨床基礎コース」と「セラピスト養成コース」の二つの専門コースを設立しました。この訓練コースは、研修プログラムの中のいくつかの研修を受けながらも、より確かな専門性の手ごたえを得られるように体系化されたコースとなります（詳細は訓練コースの募集要項を参照）。

<p>「観察と臨床基礎」 基礎セミナー I</p>	<p>松本拓真先生／森ノ宮</p>	<p>第1・3土曜日／14:30～16:30</p>
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>このセミナーは、観察と臨床基礎コースの1年目の受講生の必修セミナーとなっています。前半の1時間が理論学習であり、5名以下の少人数制というコースの利点を生かし、あらかじめ決まった文献を読むのではなく、メンバーに合わせて、理解の弱い部分、苦手な部分をフォローするために文献を選択して読んでいきます。後半の1時間は各自の職場等の観察によるワークディスカッションであり、観察を活用して集団状況（学校など）や職場内力</p>		

動（病院・児童福祉施設など）の理解を目指します。これらを通して乳児観察・文献講読Ⅰ・Ⅲといった他の研修プログラムを十分に消化し、実践に結び付けることができる自信が得られることを目指します。

<p align="center">「セラピスト養成」 アセスメントセミナー</p>	<p align="center">鵜飼奈津子先生／梅田</p>	<p align="center">第3土曜日／18:30～20:30</p>
<p>—講師からの内容紹介— 子どもの精神分析的心理療法をどのようにセットアップしていくのか、実践に活かせるよう、参加者の臨床現場に即したアセスメントのあり方について検討していきたい。毎回、セミナーの前半は子どもの心理療法のアセスメントに関する文献講読を行い、後半は参加者からのアセスメント事例の報告の検討を行う。 ※このセミナーは「子どもの精神分析的心理療法士」資格取得者も受講することができます※</p>		

<p align="center">「セラピスト養成」 初年度 GSV</p>	<p align="center">鵜飼奈津子先生／梅田</p>	<p align="center">第2土曜日／19:00～20:30</p>
<p>—講師からの内容紹介— 参加者が担当する子どもの精神分析的心理療法の事例を検討する。参加者が担当する事例（訓練事例およびその他の子どもの心理療法の事例、親面接など）について、参加者相互のディスカッションを通じて、より多角的な視点を持つことができるようになることを目指す。</p>		

<p align="center">「セラピスト養成」 基礎セミナー</p>	<p align="center">松本拓真先生／森ノ宮</p>	<p align="center">第1土曜日／16:45～18:45</p>
<p>—講師からの内容紹介— このセミナーは、セラピスト養成コースの1年目の訓練生の必修セミナーとなっています。子どもの精神分析的心理療法の基礎を文献を読みながら話し合っていくことで実践に役立つ理解を構築していくことを目指します。 文献の内容を自分の経験と照らし合わせ、それを少人数のセミナーの中で言葉にして、他の訓練生の発言からも影響を受け合いながら、心理療法についての理解を手ごたえのある形で深めていくことを重視します。</p>		

<p align="center">「観察と臨床基礎」 基礎セミナーⅡ</p>	<p align="center">竹山陽子先生／御池</p>	<p align="center">第1・3土曜日／16:00～18:00</p>
<p>—講師からの内容紹介— このセミナーは、観察と臨床基礎コースの2年目の必修セミナーです。2年目は、発達研究の文献を読みます。前半は文献講読で、後半は各自の臨床領域における観察のワークディスカッションです。理論的臨床的に経験から学び、臨床現場で役に立つ観察的態度と理解を習得することを目指します。</p>		

<p align="center">「セラピスト養成」 文献セミナー</p>	<p align="center">平井正三先生／御池</p>	<p align="center">第4土曜日／18:40～20:40</p>
<p>—講師からの内容紹介— 本セミナーでは、訓練コース2年目の訓練生を対象に、子どもの精神分析的心理療法に関するより進んだ内容の論文を読んでいながら、子どもの精神分析的な心理療法の様々な問題について討議をしながら理解を深めていくことを目指します。</p>		

「セラピスト養成」 2 年目 GSV	平井正三先生／御池	第 2・4 土曜日／17:00～18:30
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>本 GSV では、訓練コースの訓練生が、担当している子どものケースを持ち寄り、自由に討議をしていくことで、担当ケースのみならず様々なケースについて自分なりの考えを持っていけることを目指します。</p>		

5-4 : 正会員限定

土曜研究会	平井正三先生／御池	第 3 土曜日／19:00～21:30
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>文献講読と事例検討会を行いながら、専門会員が個々の研究について発表していきます。NPO 正会員はどなたでも、いつからでも参加することができます。昨年からは、入門グループと、研究グループに分かれて、それぞれ文献を読んでいきます。会場は、御池心理療法センター近辺になる予定です。</p>		

★本 NPO としては、精神分析的心理療法の実践において、個人スーパービジョンおよび個人分析・個人セラピーを受けることは重要かつ欠かせないものと考えております。個人スーパービジョン、個人分析をご希望の方には、ご相談を受付けますので事務局 (info@sacp.jp) までご連絡ください。

6. 修了証の発行

「子どもの心理療法 One More Step」「京都精神分析研究会」を除く各セミナーについて、年度毎に修了証を発行いたします。修了証は、本 NPO がコース修了と考える基準を明確にし、受講生がその基準を満たしたことを証明するためのものです。本研修プログラムは受講生の自主性を尊重するものであり、必ずしも修了証を受けることを目指す必要はありませんが、精神分析的心理療法士・精神療法医資格取得のために単位を必要とされる方は、修了証を得る必要があります。また本研修プログラムは、NPO 法人子どもの心理療法支援会が認定する「子どもの心理療法士」資格の要件となっております。資格取得を目指される方は修了証を取得していただく必要があります。

各コースにおいて、修了証を受け取るためには、以下の要件を満たすことが必要となります。

乳児観察	2年間の乳児観察を終了すること
G.S.V.	出席率8割
その他セミナー	8割の出席および各講師が指定したテーマに沿ったエッセイの提出

7. 申し込み

対象：臨床心理士、医師、それに準じる専門家。もしくは心理臨床の実践について学んでいる大学院生。

申込方法：申込用紙に必要事項を記入の上、**2019年2月末日（一次募集）まで**に「子どもの心理療法支援会」事務局まで E-mail または Fax にてお申込みください。

参加の可否：参加希望者が定員を超えた場合は、前年度から引き続き受講される方に優先的に参加いただきます。次に新規に参加される正会員、賛助会員、一般の順にご参加いただきます。正会員、賛助会員の中で定員を超えた場合は、先着順にてご参加いただきますのでご了承ください。参加の可否につきましては、3月上旬に事務局よりご連絡いたします。ご参加いただける場合は、その連絡とともに受講料の振込みについてのご案内をお送りいたします。連絡方法は、E-mail, Fax, 郵送の3通りがあります。ご希望の連絡方法を申込用紙の「参加可否の連絡方法」の欄でご指定ください。

★注：最近、事務局メールから yahoo mail, gmail, hotmail などのフリーメールアドレスをお持ちの方にメールが届かないという事例が散見されます。申し込みの1週間程度ではお返事を差し上げるよう努力しておりますので、1週間以上返事がない場合などはメールの不具合の可能性がありますので、事務局までお問合せください。また、迷惑メールフォルダなどに自動的に振り分けられることもありますので、ご確認のほどよろしく願いいたします。

お問い合わせ：NPO 法人 子どもの心理療法支援会 事務局

〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下る笹屋町4 4 4 初音館3 0 2

Fax : 0 7 5 - 6 0 0 - 3 2 3 8 E-mail : info@sacp.jp URL : <http://sacp.jp/>

NPO 法人子どもの心理療法支援会認定 「子どもの精神分析的心理療法士」

1. 子どもの精神分析的心理療法士とは

「子どもの精神分析的心理療法士」資格は、NPO法人子どもの心理療法支援会(以下「本法人」)が、子どもの精神分析的な心理療法を実施するために必要と考える技能・知識および経験を有すると認定した者に与える資格である。子どもの精神分析的な心理療法士は、本法人が運営するセラピー事業における心理療法実施者として活動できる。また、子どもの精神分析的な心理療法の普及のために、積極的に活動することが求められる。

2. 資格取得要件

本資格を取得しようとする者は、本法人の正会員になった上で、以下の要件を満たし、必要書類を記入の上で、本法人事務局に申請を行い、その後資格審査委員による面接を受ける必要がある。その後、資格審査委員会の会議での承認を経て、資格が与えられる。

(1) 事例経験

開始時に18歳以下で1年以上継続した心理療法を2事例以上、別々のスーパーバイザーの指導の下で行うことを必須とする。そのうち1事例は開始時に小学生以下でなければならない。また治療頻度は週に1回以上であること。その際のスーパーバイザーのうち一人は本NPOが指定するスーパーバイザー(指定スーパーバイザー表参照)であること。もう一人については精神分析学会認定スーパーバイザー、もしくは資格審査委員会が適切と認めたスーパーバイザーであること。

(2) 個人分析／心理療法

個人分析／心理療法を受けることを必須とする。頻度は最低週1回、週に3回以上であることが望ましい。また最低3年以上は継続して同一の分析家／セラピストから受けること。

分析家については、原則として、本法人が推薦する分析家／セラピスト(別表参照)、もしくは資格審査委員会が適切と認めたセラピストである。

※個人分析の関連で下記の単位取得に困難が生じるときは、個人分析を優先とし、理論学習などの受講については個別に配慮するので事務局に申し出ること。

(3) 単位取得

本法人が運営する研修プログラムの各セミナーを修了し、表1に定める単位を取得すること。

3. 資格申請方法

資格取得を希望するものは、上記の要件を満たした上で、NPO法人子どもの心理療法支援会事務局に申請書を提出すること。例年、6月末が申請書類の提出期限になることが多い。申請書類はHP上からダウンロードするか、MLにて送付されたものを活用する。申請後、資格審査委員(数名)の面接を経て(7月～9月)、資格審査委員会にて正式に認定される。資格審査委員会は毎年10～11月に開催される予定であり、合否は11月頃に郵送にて通知される。

表 1. 資格取得に必要な単位数

種別	研修名	単位数	最低基準単位		
理論 学習	文献講読 I ※1	1 単位／年	3 単位	4 単位 以上	34 単位 以上
	文献講読 II	1 単位／年	1 単位以上		
	文献講読 III	1 単位／年			
	発達障害 WS 被虐待児 S 子どもの心理療法 WS 思春期 S 親面接 S ワークディスカッション S 心理療法のアセスメント 精神分析入門セミナー	1 単位／年			
体験	乳児観察※2	4 単位／年	8 単位	18 単位 以上	
	体験グループ	4 単位／年			
事例	個人 SV	4 単位／年※3	8 単位以上		
	GSV※4	2 単位／年	2 単位以上		
	森ノ宮事例検討会	1 単位／年			
学会 発表 論文 ※5	学会発表	乳児観察: 2 単位		6 単位 以上	
		学会発表※6: 2 単位	2 単位以上		
	論文	乳児観察論文(査読あり): 4 単位	4 単位以上		
		子どもの事例論文(査読あり): 4 単位			
	(査読なし): 2 単位				

※1: 文献講読 I は、1 年目「フロイト」、2 年目「クライン」、3 年目「ビオン」を 1 タームとしている。このため、各テーマについて単位を取得しなければならない。

※2: 乳児観察はセミナー参加期間ではなく、自身の観察を行った期間とする。

※3: 個人スーパービジョンについては原則毎週行われるものとする。隔週の場合は 1 年で 2 単位とする。ただし、2 事例のうち最低 1 事例については毎週のスーパービジョンを受けていること。一人のスーパーバイザーで算出できる単位は 8 単位までとする。

※4: グループスーパービジョンについては原則隔週で行われるものとする。月 1 回の場合は 1 年で 1 単位とする。

※5: 査読ありの論文を少なくとも 1 本執筆することを必須とする。事例の発表及び論文の事例は、スーパービジョンを受けた子ども(18 歳以下)を対象とするものに限る。

※6: 学会発表は日本精神分析学会における研修症例発表、もしくはそれと同等と資格審査委員会が認定する学会での発表とする。

4. 資格申請料

資格取得にかかる審査料と資格証発行料として1万円を申請時に事務局に支払うこと。支払いは振込みで、「郵便局 00980-8-150282 加入者名:NPO 法人子どもの心理療法支援会セミナー」に振り込むこと。

5. その他(その後の研修)

子どもの精神分析的心理療法士資格の取得は、一定程度の技能・知識・経験を有することを認めるものであり、資格取得後も継続して自己研鑽に努めることが勧められる。資格取得後に目指すべき方向として、以下のものが挙げられる。

- ① 子どもの精神分析的心理療法士の資格を取得したものは、引き続き自身の臨床に関する研鑽に努め、日本精神分析学会認定精神分析的心理療法士・精神療法医の資格を取得することが勧められる。
- ② さらに、子どもの精神分析的心理療法指定スーパーバイザー資格の取得を目指し、訓練を提供する側になることが強く勧められる。